

岡)。

又一時衰えを見せた關金融も年末要資の増加旁々銀行の融資引締めを映じて本月は幾分活潑化した貌である(函館)。

四、通 貨

更月後租税、食管、専売収入、郵便局過超金の受入等政府資金の引揚好調(大阪、京都、名古屋、松本、新潟)に伴い中旬迄小康状態にあつた(各店)銀行券は下旬に至つて供米代金の支払急増(大阪、松江、広島、甲府、仙台)官吏俸給新旧ベースの差額支給旁々繰延中の会社筋の越年資金、年末決済資金(大阪、小樽、前橋、松本、仙台)等現金需要が輻輳した為め下旬に至つて連日著しい発行超過を示したが(各店)、未日に至つて極力還収に努めた結果臨時寄託券制度実施の關係も加わり大幅の還収を見た(各店)。

五、物 価

實際物価は歳末景気の低調から例年の如き年末昂騰の気配は窺われず(広島、函館、神戸)総じて微騰(大阪、岡山、高知、甲府、熊本、小樽)乃至保合(松江、京都)で商品出廻りの順調と一般購買力の不振を如実に反映している(大阪)。織維品の一部、燃料、正月用の糯米、小豆類、砂糖は季節的に若干値上りを示し(秋田、広島、高知、小樽、新潟、大阪、京都、松本)ているが、主食類は甘藷が季節外れて反騰(大阪)した外、米、麦何れも値下り(函館、静岡、甲府、岡山、下関)乃至は保合(青森、仙台、新潟)の処が多い。

六、歳末商況

年末を控え百貨店、商店街では華美な店頭装飾、宣伝、福引付売出、配達の復活等種々趣向を凝らして客足の吸引に努めているが(各店)、依然として良品の選択買傾向強く(函館、仙台、福島、新潟、広島、福岡)又期待された農村の購買力も生活費の昂騰及團取入の減退、殊に一月以降の徴税警戒等から一向に振わず(仙台、福島、札幌、鹿児島、新潟、熊本)、為めに百貨店を除けば期待程の売上のない向が多い(各店)。

品目別に見るならば購買力は概ね衣料品、食料品、生活必需品等に向けられ(金沢、新潟、広島)会社、団体等の贈答品を除いては大口買物は少く(小樽、青森)高価な家具類、美術品等贅沢品は不振を極めて(岡山、広島)。(渡辺幸)

各支店金融報告抜萃 昭和二十四年一月—三月

昭和二十四年一月—三月

一、概 況 一 月 中

総選挙の結果民自党の圧勝は政局の安定を齎すものと一部の労組を除き好感を以て迎えられ、一般の関心は今後採らるべき政策就中経済安定九原則の具体化並に為替レートの帰趨に向けられている(各店)。産業界では企業経営合理化の機運漸く熟し(各店)、人員整理も漸次本格化且全般化しつつあるが、反面之は労資間の摩擦を激化せしめ、総選挙による共産党の予想外の進出と共に今後の成行が注目されている(神戸、京都、松山)。年初早々展開された徴税攻勢も、中小企業の間金詰り深刻なる折柄、予定額徴収は困難視せられ、若し之を強行すれば、或る程度の破産者を出す場合もあるものと憂えられるが(各店)、農家は昨年の経験に鑑み可成り納税準備をしているので多少の摩擦あるにせよ、農業所得税の予定額徴収は可能と見られている(新潟)。斯くの如き徴税の強行により一般に金詰りは一層激化しているが(各店)、特に炭礦関連業者は炭礦の未払金累積により窮境に陥つている(札幌、下関)。暖冬異変は電力事情を緩和せしめ(各店)、冬季低下を懸念された生産も微落に止り(大阪)、又貨物輸送を円滑ならしめたが(秋田)、一面山元よりの搬出難による木材滞貨の増大(福島、秋田)、寒天(松本)、海苔(広島)の被害、ブリの不漁(高知)等を始め、麦作の徒長が憂慮されている(各店)。尚レート設定に関連して流布されている通貨措置懸念は關係当局の屢次の打消声明にも拘らず、依然として根強きものがあり(各店)、通貨逃避の対象は先行デフレ見越から商品を選り主として株式に置かれているが(札幌、甲府、熊本、鹿児島)、一部では十円以下の小額券の需要が増加している(小樽)。

二、預 金

年末著増した銀行預金は年明け後、未決済手形・小切手の引落、同業者公金預金の引出等により大幅に減少したが、其の後も徴税の強化、政府支払の不伸、旧

正資金の引出等により増勢芳しからず、大部分の地域に於て類勢を挽回し得なかつた(各店)。次に農業協同組合預金は供出が峠を越し又生活費、旧正資金等の引出相次ぎたるため、増勢著しく鈍化し、特に供出の完了せる単作地帯では早くも減少傾向を示しているところもある(秋田、福島)。而して農業協同組合預金を巡つての県信連、普銀、信託銀行三者間の争奪は活潑化し、普銀及び信託銀行は何れも県信連よりも有利な預金利率を附し、その獲得に努め動もすると金利の競争的吊上を行っていることが注目される(名古屋、静岡、高松)。

三、貸 出

九原則を中心とする新情勢と預金状況に鑑み各行共融資態度は益々慎重化し、貸出先の厳選、短期回収に努めているので、旧正関係資金、水産物蒐荷資金酒・味噌・醬油製造資金、織維関係資金等の需要ありたるに拘らず、月中貸出増加は少額に止つた(各店)。融資準則改正の結果、配給手形制度の拡張等により丙種協議範囲の縮小されたことは申請手続の労を省くものと一般に好評であり(名古屋、下関、岡山)、又一般に手形の優遇されていることは、現下の金詰りと相俟つて、手形取引を漸次増加させて行くものと思われるが(松本、小樽)、他面不渡手形増加の傾向も見られて来た(京都)。

四、通 貨

旧臘急激な膨脹を示した通貨は、越年後歳末放出資金の回帰順調であり、而も国庫金揚超高が多額に上つたので、中旬までの還流状況極めて良く、還流率は各地共前年を上廻つた(各店)。下旬に入り旧正資金、給与資金等の需要擡頭し、発行超過に転じたが月中を通じて見れば、一部農村方面を除き他は何れも還取超過となつた(各店)。

五、商況及び物価

新春の商況は概して冴えず(各店)、期待された旧正景気も、徴税を控えての農家の自制により低調に終つた(新潟、松山)。一般の選択買傾向は益々強化され買気は百貨店、老舗に漸次に集中し、税金攻勢と共に新興商人は窮地に追込まれつゝある(札幌、青森、福島)。実際物価は、季節的品蒔の蒔類、取締強化による米等若干の騰貴を見たが購買力の減少を反映して大勢は保合状態であつた(各店)。

六、単一為替レート設定と地方輸出産業

レートが一弗三百五十円に決定された場合地方輸出産業の採算状況を現行フロア・プライスとの対比に於て見るに、多数の業種が不採算となるが、之等業種の経営単位は中小規模のものが多く、今後企業合理化によるコスト引下も可能で、大部分は採算可能となるものと見込まれるが(各店)、唯生糸、自転車、高級陶器、漆器等は合理化の余地乏しく、出血不可避と見られている(名古屋、京都、福岡、前橋、福島)。特に生糸は主要輸出品であるだけにその影響深刻であり、業者は政府の価格補給金にその存廃を託している状態である(前橋)。

二月 中

一、概 況

経済九原則の実施も愈々具体的段階に入り會ての自由経済復帰への甘い期待は払拭され、新内閣が如何に九原則を実行するかに関心がかゝつている(各店)。恒例の徴税期を迎え各地とも昨年の徴収実績を上廻り(各店)、北海道に於ては当月中に略々目標の一〇〇%を達成するものと見られている(札幌)。かゝる租税を中心とする政府資金の引揚進捗にも拘らず支払が著しく遅滞し、且九原則の線に沿う市中銀行の貸出も慎重化し、最近の企業の金詰りは深刻な様相を呈しているが(各店)、之が為閩金融のばつこを来たしていることは注目される(甲府、松江、福岡)。然し一般に合理化への動きは一段と真剣化し、整理乃至転換の具体的動きが表顕化している(各店)。殊に炭礦未払金の累増に対処して閩連産業は売止め乃至生産品目の転換を講じており(福岡、大阪、札幌)、又人員整理に対する政治闘争も活潑化し(京都)一部中小企業にあつては労資一体となつて大資本に対抗せんとする動きが見られ注目されている(静岡、松江)。

本行の高率適用強化の報は異常の関心を喚んだが(小樽、函館、福島、福岡)、内容の判明するにつれ地銀筋は直接的影響なきため協力的態度を示し(青森、名古屋、松江)。今後大銀行筋の地方への手形放出増高と業者の地銀への融資依存度の増大が予想され(静岡、秋田)、優良貸出の地方分散化を期待している向もある(高松)。之に反し支店銀行筋では自衛上高利廻と回転の迅速を狙う結果、融資準則の意図と逆行する現象も生ずるに至るのではないかとこの意向を洩らし(松本)、又公団認

証手形の割引(福岡)購辦スタンブ手形(福島、前橋、甲府)を敬遠する態度も見られるが従来の取引関係から急激な貸出引縮はないものとみられている(下関)。

手形税の創設は信用取引を阻害するもので(松本、下関)証書貸に移行することも見透され(札幌)寧ろ印紙税法の改正によるべきであるとの説が強い(函館)。

供米一巡し納税及管農資金の本格的な需要期を迎へ単作地帯では農村金融の見透しが漸く問題化し(秋田、仙台、前橋、新潟)農手利用も昨年の五倍程度の増加が予想され(仙台)、又甘藷、葉煙草への農手利用範囲の拡大を要望する等(鹿児島)昨年同様の金融窮迫に逢着する懸念があるが(新潟)、昨年の経験に鑑み農家も納税管農準備をしており、超過供出の予想外の順調に預金歩留りも昨年を上廻る等比較的楽観的な地方もある(高松、下関)。

二、預 金

租税を中心とする政資の大幅引揚にも拘らずその支払は渋滞し、商品の回転不振、農家の春耕資金の需要等相重つたため都鄙を通じて預金は大幅の減少を示し(各店)、本行貸出の量的統制が伝えられる折柄保険会社と特約して保険料の月掛積立預入制度(鹿児島)、割増附定期預金(名古屋)等の新種預金獲得策もあらわれ、各行とも預金獲得に腐心している(各店)。

農業協同組合に於ける供米代金の歩留は供米一巡後、春耕資金を初め生活費納税資金の引出顕著で漸次低下しているが(各店)、従前の濫費性向を反省し納税管農資金に充当せんとする気運も見られ歩留率は昨年比し一〇%乃至五%方上昇している(前橋、名古屋、大分)。然し系統機関の信用薄弱に加え銀行の系統預金獲得も活潑化し、系統外預金が増大していることは注目される(名古屋、下関、高松、熊本)。

三、貸 出

業界の深刻な金詰りを反映し融資の申込は累増したにも拘らず(各店)、預金の不振と本行の引締方針を反映して市銀の警戒的態度は益々強くなつており(各店)、納税融資或は新規貸出は極力差控えられたが左記の如き資金需要相踴ぎたため貸出は寧ろ増加した(各店)。

融資の中、主なるものは織維関係資金(大阪、新潟、前橋、福島、京都)、公園

各支店金融報告抜萃 昭和二十四年一月―三月

認証手形融資(福岡、熊本、下関、松江)、炭礦関連産業融資(福岡)及冬山造材資金(小樽)、水産物荷受資金(青森、函館)等の季節的資金の外、買手融資(神戸、名古屋)、大口融資の本行斡旋(大阪、小樽)の増加が目立っている。

四、通 貨

租税の徴収政府支払の渋滞を主因として銀行券は大幅の還収を示し(各店)殊に新潟、青森は前年同期の二倍を上廻る未曾有の収縮振りを見せ昨年十二月出超高に對する年初来の還流率は九七・九%(昨年三九・五%)に上つている(名古屋)。

五、商況及び物価

商況は依然冴えず(各店)商店筋は徴税攻勢に焦慮の色濃く滞貨の一掃に努めているが、売行不振で(各店)従来購買力の動向に無影響であつた百貨店の売上高も記録的減少を示した(大阪)。

實際物価は保合乃至低落気味で(各店)、特に例年値上りの木炭燃料は暖冬異変で一割方下落した(京都)。主食類は取締強化で消費地は若干騰貴し(小樽、京都、大阪、広島)、又麦作減収九原則実行による主食輸入制限を予想し反騰気配が窺われる(岡山)。

三 月 中

一、概 況

ドツヂ声明殊に予算案の内示は一般に強い反響を呼び業界は従来の安易感を一擲し企業自立化の方途を真剣に考慮しているが(各店)、折柄政府資金の引揚継続による金融逼塞に企業は玉石共に崩壊の他なき事態に陥る惧れありとして金融緩和を望む声が高い(大阪、京都、金沢)。高率適用強化発表に市中銀行貸出は一段と慎重厳選化し(各店)、殊に大銀行筋の資金運用の短期化と大口貸出の地方分散化が目立つているが、向後緊縮財政に伴う資金蓄積の鈍化に市中銀行の本行依存は昂まるものと予想され(各店)、新高率適用制度も新情勢に即応して修正する必要があるとの意見も見られる(大阪)。

年初来の徴税実績は目標を上廻る好成绩を示し(函館、前橋、新潟、甲府、静岡、岡山、高松、松山、高知、下関)、加うるに政府支払の渋滞、炭礦未払金の

増大に金詰りは悪化の様相を呈し(札幌、大阪、福岡)、炭礦関聯産業中には業者の意識の生産制限乃至転換もあつて弗々生産低下の現象を露呈し(大阪)、二十四年度石炭四、二〇〇万トン達成も困難視されている(札幌)。賃銀の不払乃至遅延は漸次普遍化し、殊に地方中小企業(土建、木工、農機具、亜炭)は甚しく工場の閉鎖、人員整理が漸増し(青森、福島、松本、甲府、新潟、神戸、岡山)之が為労働争議も賃上げ闘争より人員整理をめぐる動きが目立つている(広島)。最近の急激な購買力の低下に荷動きは停滞し(静岡)、鉄道貨物輸送も荷枯れを示す等(岡山)商況は不振で転廃業者が増加し(松本、鹿児島)、又農村方面に於ても農業手形の出廻りが増加すると共に(仙台、金沢、松本、熊本)百貨店の購買層も勤労者階級へと移行している(松山)。

右を反映して闇金融が跋扈していると云はれるが(札幌、青森、福島、甲府、名古屋、下関)、専門筋は既に貸金を引締めており、素人筋は代金の回収難に没落が予想されている(札幌)。又資金需要もブローカー資金より事業資金、納税資金へと変化している(名古屋)。

二、預 金

前月に引続き預金の伸張は極めて不振で季節的出荷代金(りんご、みかん)の流入した地方(青森、松山)を除き大幅の減少を示し(各店)、仮令増加した地方と雖も粉飾によるものが多く準則上財政資金への運用率の減少見越、高率適用強化に安易な粉飾態度が窺われる(前橋)。銀行の預金伸び悩みにも不拘郵便貯金、信用組合預金等所得預金が増加し(札幌、名古屋)銀行筋も手数を厭わぬ零細預金吸収の必要を認め物より金への心理を狙う五十万円賞金附無記名定期預金(鹿児島)、其の他各種割増金附定期預金等により大衆預金の獲得に腐心し(各店)定期預金の優遇措置を要望している向もある(静岡、岡山)。又税務署員により銀行預金の一斉調査が行われ預金者に相当深刻な影響を与えたが預金の秘密性保持に再検討を望んでいる(小樽)。

農村方面の納税當農生活資金の引出は顕著で(各店)県信連の対農中預け金も減少し、極力貸出の回収農業手形の出廻り促進に努めているが(各店)、群馬県信連では農中預け金も底をつき無担保借入を仰ぐに至つた(前橋)。

三、貸 出

金詰りの一般化から繋ぎ資金の需要増加に加え季節的資金期末決済資金需要が競合したため、市中銀行の貸出は引締態度にも拘わらず著増し(各店)本行借入が高率適用基準額(一二%)を上廻る地方もあつたが(大阪、鹿児島)月末政府指定預金の流入もあり、貸出増嵩は漸く緩和された(大阪、神戸、札幌、名古屋、金沢)。

然し根本的には政府支払を促進することが先決問題で、政府支払遅延に対する非難が強くなつている(大阪)。高率適用の実施発表に大銀行支店の貸出引締は甚しく支店銀行預金地元還元が問題化し(札幌、仙台、静岡)、一部都市では地元退去の要求を決議せんとする気運をみせる等(札幌)大銀行支店の立場を微妙なものにしていく(仙台)。又中央融資の地方移行により地元銀行への融資申込が殺到し地元銀行の金繰りを圧迫しているが(松江、静岡、福島)、地方産業育成上地方銀行の本行借入増加が予想されている(秋田、新潟、神戸、岡山、下関、大分、鹿児島)。

かゝる折柄購商資金が地元銀行に集中せんとする傾向が予見されるが、これが回収難見越しと預金伸張の窮状からして融資には相当の困難が予想されている(福島、前橋)。

四、通 貨

年度末政府資金の撒布も涉々しくなく租税を主因とする政資の引揚好調による金融の逼迫に本行貸出は著増し、月末政府指定預金の流入に之を相殺する等通月金融は繁忙を呈したが、本行券は前月に引続き順調な還収を示した(各店)。

五、商況及び物価

商況は急激な購買力の低下に荷動きは不活潑で(新潟、静岡、岡山)業者は手持品を売却かんと各種宣伝戦に大奮であるが(各店)百貨店筋が春需要に若干増加した外一般に極めて不振であつた(各店)。

実際物価は花見時を控えながら騰貴傾向は見られず一般に保合状態に推移したが(各店)、主食類は取締強化配給の質的变化に五円乃至十円方騰貴し(小樽、函館、広島)、野菜類は統制廃止を前にして些したる変化はなかつたが(青森、前橋)、都市では産地側の売値に値上りを示した(大阪、広島、静岡、金沢)。